

# 第6回日本語祭り報告

第6回日本語祭りが9月28日(日)、ブラジル日本語センターで開催されました。当日は曇り空で、時折霧雨が降る天気でしたが、午前8時に受付が開始される1時間以上も前から、作品コンクールの表彰式に出席する親子連れがセンターに集合していました。

この日本語祭りは、ブラジル日本語センターを広く日本語学習者に知ってもらおうと、2003年より行っており、今年で第6回目を数えます。

サンパウロ市内はもちろんのこと、近郊のモジ、スザノ、カンピーナス、ピラール・ド・スールからも表彰式に訪れ、遠くは、ドウラードス、ロンドリーナからも参加してくださいました。

例年より参加者が増え、175名の生徒が賞状及びメダルを受け取りました。

表彰式はセンター講堂で行われ、谷理事長の挨拶の後、来賓の紹介、表彰状授与式と続き、ブラジル日本移民100周年記念式典協会から、「笠戸丸賞」を授与された12名が紹介され、内10名が谷理事長から記念のコインが贈られました。その後、同コンクールに参加している学校の内、7校が歌や踊り、体操などを披露し、賑やかなうちに日本語祭り表彰の部が終了しました。



センター内では、古本市、バザー、売店などが出され、多くの来場者が訪れて、賑わいました。また、作品コンクールの入賞作品があちらこちらに張り出され、来場者の目を楽しませていました。

今年のJICA所長杯受賞者は、木下登(サノ)金剛寺学園・書道部門)、矢島みどり(昭和日本語学



校・絵画部門)、荒堀エジソン(清心学園・硬筆部門)、小森美津江(ドウラードスマテル校・作文部門)。

CBLJ理事長杯受賞者は、吉池三志郎(サノ)グアイオー日本語学校・書道部門)、金崎美恵(ハルゼアアレグレ日本語学校・絵画部門)、伊藤理加(サノ)金剛寺学園・硬筆部門)、鏡野獅珠雄(ピラールトスール日本語学校・作文部門)でした。

また、午後2時からサンパウロ・スピーチコンテストが行われ、17名が参加しました。

入賞者は、次の通りです。

1位：辻パトリシア須磨香(A組)、小森美津江(B組)、江崎左奈絵(C組)、安楽美幸(15歳の部)

2位：中村宮本フェルナダ(C組)、弓場フランスリス(15歳の部)

3位：谷口マルセロ正宏(C組)、冨田愛美(15歳の部)



今年も大いに盛り上がりましたが、来年はもっと生徒参加型の日本語祭りにするよう、日本語祭り実行委員会では企画、検討を重ねていくことになっています。



写真左は「笠戸丸賞」受賞者の皆様です。おめでとうございます。

伊津野敬嗣、安永忠邦、柳森優、河野八千代、磯田淑代、岡崎やす子、矢崎幹子、高橋都美子、斉藤さゆり、おぎまもる、まつおまなこ、しろたしづこ、早百合、尾崎守、松尾真名子、城田志津子(敬称略)